

アジア通信第九回 番外編 2

－アジアの地下鉄事情－

山田ビジネスコンサルティング(株)

アジア事業本部

今、日本では「市場としてのアジア」が注目されていますが、アジア各地の地下鉄には、「市場としてのアジア」を考えるための様々なヒントがあると感じます。例えば、地下鉄の乗客は、その地域の「普通の人々」をイメージする手掛かりになると思います。貧富の差が日本よりもはるかに大きいアジアで、「普通の人々」を論じること自体ナンセンスかもしれませんが、強いてイメージするためには、地下鉄の乗客が最適な素材になると思います。

乗客のファッションや使っているスマホや携帯には、その地域の人々の嗜好や購買力が反映されています。また、マナーの水準・生活パターン・治安の良し悪しから都市のインフラ整備状況など様々な情報が地下鉄に凝縮されています。

では、筆者とともにアジア各国の地下鉄の旅に出掛けてみましょう。

1. 上海

上海の地下鉄というと、多くの日本人はマナーの悪さを想像すると思います。確かに、日本よりも悪い面もありますが、良い面もあり、トータルでは日本より少し悪いぐらいと筆者は感じます。車内で激しい椅子取りゲームが繰り広げられることもあります。猛ダッシュで椅子を奪った人が、奪った次の瞬間にはお年寄りに席を譲ったりしています。「それなら最初から猛ダッシュするなよ」、なんて思うのは野暮なのでしょう。お年寄りに席を譲る文化は東京・大阪よりもはるかに浸透しています。これは儒教の影響でしょうか。



上海地下鉄の車内

2012年8月撮影

ーとはずいぶん違います。

また、希ではありますが、車両の中に物乞いが現れ集金して回ることがあります。小学生の女の子を連れた母親風の物乞いや、ギターで歌うフォークデュオ風物乞いなどのバリエーションがあります。

上海地下鉄では車内での携帯電話はマナー上 OK です。ちなみにエレベーター内での通話も OK です。車内・エレベーター内でもちゃんと電波が通っています。

上海の地下鉄に乗っている人の多くの身なりは、日本人のそれと大差はありません(洋服の色使いは違いますが)。結構おしゃれです(ちなみに北京の地下鉄は野暮ったいです)。若者がスマホをいじくっている風景も日本と同じです。

また、地下鉄に乗っていると、上海の人は、親切で人懐っこいと感じることがあります。車内で立っている筆者に、空いている席を指差し「ここに座んなさいよ」みたいな中国語で話しかけてくるおばちゃんや、日本語を話している筆者に「あなたは何語を話しているの?」と英語で話しかけてくる女子中学生や、日本のマスコミで報道される、凶暴で傲慢な中国人のイメージとはずいぶん違います。

上海では、現在 11 本の地下鉄が走っており、建設中のものが 1 本あります。これ以外にも今後の建設予定が沢山あるようです。現在の 11 本のうちの多くが、ここ 10 年以内に作られたそうで、スピードの速さに驚きばかりです。また、地下鉄がカバーしているエリアは、上海の中心地だけでなく、松江(上海の工業地帯&大学が集まっている場所)、外高橋(上海市東側。輸出入の基地)、安亭(江蘇省昆山の近く)といった結構辺鄙な場所にも及びます。

ところで、ジャカルタには地下鉄がないということをアジア通信第四回で紹介いたしましたが、ここに、中国政府とインドネシア政府の政策実行力の違いを見ることができます。中国政府の政策実行力の高さは桁違いです。

料金は、概ね 40 円～70 円で、支払いには IC カードの切符を使います。この IC カードは、地下鉄の外、バス、タクシー、リアモーターカーの料金の支払にも使える万能・便利カードです。

2. 台北



台北の地下鉄車内
2012 年 8 月撮影

台北の地下鉄は、駅も車両も新しくとても綺麗です。乗客のマナーも良く、服装もおしゃれです。良くも悪くも意外性はありません。日本とほとんど変わらないという印象です。日本との違いは、地下鉄内で飲食が禁止されていること(ガムも禁止されています)、車内でも携帯電話の通話は OK ということぐらいでしょうか。ちなみに、シンガポールでも車内での携帯電話の通話は OK です。ひよっとしたら、車内での携帯電話の通話が NGなのは日本だけかもしれません。

料金はだいたい数十円程度、切符は IC カードまたはトークンという IC チップが内蔵されたコインのようなものを使います。IC カードは、バスはもちろん大部分のコンビニ(セブンイレブン、ファミリーマートなど)、一部タクシーで使用可能です。

3. バンコク

バンコク市街地内には、スカイトレイン(高架式の鉄道)、地下鉄の二つが通っています(これらとは別に空港とバンコク中心部を結ぶ鉄道「エアポート・レール・リンク」もあります)。

スカイトレインなどに乗って、まず感じることはバンコク女性のおしゃれさです。バンコクは、おしゃれ先進地域をはるかに通り越し、おしゃれ前衛地域といった感じです。車両内では、歯の矯正をしている若い女性を沢山見かけますが、実はこれは矯正ではなく、ファッションなのです。矯正金具自体がファッションアイテムになっているのです。バンコクの若い女性には、髪の毛を金髪に染め、美白し、目の縁を黒くして、ほとんど白人女性みたいな風貌になっている人もいます。上海人・台湾人・日本人は、同じファッション感覚を共有出来ていると思うのですが、バンコク女性は全く別の進化を遂げているようです。強いて比較出来るとすれば日本のギャル系ファッションでしょうか。筆者には、いずれもサイボーグに見えてしまいます。



バンコク エアポート・レール・リンク車内の広告
2012年8月撮影

女性のファッションだけでなく、激辛の料理、走り屋風に改造されたタクシー(アジア通信第四回ご参照)など、タイ人の嗜好・文化にはエッジが利いています。

ところで、スカイトレインと地下鉄は、別々のシステムとして運用されています。例えば、地下鉄にはボディチェックと手荷物検査があるのに対して、スカイトレインには検査がありません。また、切符は、スカイトレインではICチップ内蔵のトークンを使いますが、地下鉄は磁気カードを使います。料金はどちらも、数十円程度ですが、スカイトレインと地下鉄の乗り換え時には初乗り料金が取られてしまいます。トークン・磁気カードを地下鉄・スカイトレインで相互に共用することはできません。

何故、別々のシステムで運用されているのかわかりませんが、不便で不効率と感じます。

4. シンガポール

シンガポールはマナーに対して厳しい国として知られています。実際に、地下鉄で二人分の座席を一人で占拠していた中年女性が”singaporeseen.stomp.¹(シンガポールのネット上のタ刊誌のようなもの)”に顔写真付きで糾弾されている記事が掲載されていることがありました。駅のベンチで寝ている若い女性、バスで歌って踊っている若い男性など、日本ではニュースにならないようなことが、”singaporeseen.stomp.”では写真付きのニュースになってしまいます。いかにも平和で微笑ましいともいえますが、四六時中監視されているような気もします。

シンガポールの女性のファッション感覚も特徴的です。こちらではボディコンが健在です。バブル期の日本でもそうでしたが、やはり日本とは違います。ボディコンに、ぺったんこの靴(ときには草履履きも)・ノーメーク、これが一つのパターンです。暑いせいもあるのですが、ストッキングを履いている女性はほとんどいません。日本女性のファッション感覚とはかけ離れた何かがシンガポールにあります。日本のアパレル企業のシンガポール市場進出は相当苦戦し、浸透までかなりの期間を要することになるのではないのでしょうか。

地下鉄の切符は、一律ICカードです。バス・タクシーにも使える便利なカードです。料金は、近距離なら約70円前後です。シンガポール人の所得水準²と比べるととても安いといえます。シンガポールの物価水準は、二極化していると感じます。地下鉄料金その他、ホーカーセンターといわれる屋台風フードコートでの食事は1食200円~400円ぐらいと、生活必需品がとても安い反面、贅沢品は、タバコは1箱800円ぐらい、クルマは安くても700万円ぐらい、等です。普通の日本人の生活レベルは、こちらでは贅沢となり、かなり高くなってしまいます。

シンガポールには、相続税・贈与税が存在せず、個人所得税率は最大20%です。日本と比べると、格差是

¹ <http://singaporeseen.stomp.com.sg/singaporeseen/> シンガポールの庶民感覚を知るためにお勧め。The Straits Times 発行。

² シンガポールの一人当たりGDP: 名目で約5万USドル、購買力平価で約6万USドル。日本はそれぞれ、約4万6千USドル、約3万5千USドル。いずれもジェトロ資料より。

正・富の再分配という思想が希薄と感じる反面、生活必需品の安さや手厚い住宅取得補助制度(シンガポールの持家率は 2011 年で 88.6%³)など最低限の生活保障はむしろ日本よりも手厚いと感じることがあります。

以上中国・アジア各地の地下鉄を見てきましたが、読者の皆様も現地で地下鉄を楽しまれてみては如何でしょうか。観光バスでは見ることの出来ないアジアの日常・真実がそこにあります。

³シンガポール日本商工会議所 HP より、日本は 61.9%(2010 年 平成 22 年国勢調査より)。